

(様式3)

## 自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>ミーティング、勉強会、日々の申し送りや、会話の中で 理念を確認して いる その人らしく暮らしを支える支援を行っている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日々の申し送りや、全体会議、勉強会、日常会話の中で話し合い理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族さんに、職員は利用者の気持ちを大切にしたい その人らしい生活ができるように支援していることなど伝えている。理念がご家族の方にもわかるように花だよりに掲載している。</p>	<p>地域の方には日々の暮らしの様子をみて頂いたり接する機会をもち、理解して頂けるようにしていきたい。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>挨拶をかわしたり、収穫したくだものや野菜を頂いている。日常必要なアドバイスも下さっている。さぎ草を頂いた際には手入れ方法を教えて頂いた。作品展やバザーの参加もある。催しを企画した際は、パンフレットを配布し、近所の方の参加を呼びかけている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地元の人々との交流を深めていくために今年から祭り巡行の際、グループホームを休憩場所として提供することによって 地元の方との交流を深めることができている。小学校、中学校の福祉授業の受入れを行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>地域の方に参加して頂くだけでなく職員も地域の一人として自治会の行事、会議等に参加するようにしていきたい。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年3～4回運営推進会議を行って、状況報告や話し合いを行って意見交換し参考になることは取り入れるようにしている。</p>	
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当者と交流する機会がないので、今後は市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいきたい。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護や成年後見制度は勉強会で学ぶ機会がある。利用者の方の中にも成年後見制度を活用するかた、以前活用した方もいて、今後も支援していきたい。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティングや勉強会で学ぶ機会があり、利用者の方に状態変化がないか、日々暮らしの中で観察していくようにしている。職員間で、情報提供も行い防止に努めている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着化に努めている。 ユニット間の移動によって利用者が不穏にならないように、普段から職員は利用者とレクリエーション、行事等を通じて馴染みの関係を築き、コミュニケーションを図るようにしている。		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回勉強会を行っている。 外部からのスーパーバイザーの導入によって研修も受けている。		職員が外部で研修を受ける機会を増やしていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、他の施設を訪問し情報収集するようにしている。 他の施設からの実習も行っている。 市内のグループホーム集会に参加している。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎年面接を実施し、職員は不満、悩み等意見を伝える機会がある。休憩時間もとるようにしている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の努力や実績の評価も行われていて、日々情報収集又、状況を把握し働きやすい環境に努めている。月1回話し合いの場を設けている。 問題点などがあれば改善の努力をして頂いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族の方から相談を受けた後、本人と必ず面接を行い、状況、身体面、精神面、共同生活ができる方かどうか見極めさせて頂き、本人の気持ちも聴き取る機会もつくっている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族の方の思いや希望等すべて聴きとり、受けとめる努力をしている。定期的に連絡し、状況の把握にも努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人とご家族の関係や状況把握、必要な事を情報収集して、グループホームでの生活が可能か見極めている。利用不可能な場合、他のサービス利用を進めるようにしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人がグループホームの雰囲気馴染んで頂くために、ご家族の方と同行して見学をして頂いている。他の利用者と対面してもらい、一緒にお茶を飲んだり会話をしてユニットの雰囲気をあじわう機会をつくっている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者から昔ながらの仕来たりや習わしを一年を通じて学ぶことが多い。食材をみると調理方法を教えて下さったり会話を楽しみながら一緒に調理している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	利用者の健康面、精神面等その都度状況報告しご家族の方にも状態を把握して頂くように努めている。問題が起きた時にはご家族に意見を聞きながら協力して頂いている。		グループホームで安心して暮らしていく為にはご家族の協力がなくては、職員の対応だけでは難しいところがあるのでさらに協力を求めていきたい。
29	利用者と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事参加の呼びかけによって、ご家族の訪問が増えて一緒に過ごす時間も増えることを狙いとしている。利用者の伝えられないことを職員がかわって報告し、理解して頂いている。		行事参加の案内を行っているが参加者は少ない時もあり、今後も協力を求めていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族からの情報や利用者が大切にしてきたと思われる人や場所を職員は認識し、日々の会話や思い出の品物等で長期、記憶していけるよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は利用者一人ひとりの性格など把握し利用者同士が楽しく一緒に過ごせるように支援している。時々口論になるが、職員はタイミングをみて間に入り、話題をかえるようにしている。どんな方でも受け入れて下さり、利用者同士いい関係が築かれてきている。		
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても ご家族の方が訪問、電話等で近況報告や相談も受けている。また、他の家族の方を紹介して下さっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思いや希望は、日常生活の会話、行動、周りの様子から気づくようにしている。日々記録し職員が把握に努めている。外出希望も多くなっているが、できる限り取り入れている。</p>	<p>意思をはっきり伝えられない利用者には、希望していること、意向を予測して支援している。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご家族からのバックグラウンドシートや利用者との会話の中で情報を把握し、ケアに活かしている。</p>	<p>日々の生活の中、一人ひとりに関わりながら情報を得て、ケアに活かしている。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>排泄、入浴シート、職員間の連絡帳、日々の申し送りや記録シート、日常生活で利用者に関わりながら観察を行い現状を把握するように努めている。</p>	
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者がよりよく暮らすために日々カンファレンスを行い、何を望んでいて、日々どのように過ごしていきたいのか、気持ちや、思いにそった介護計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>実施期間に応じて見直しを行っている。状態に変化がみられた場合には、必要に応じ、関係者と話し合い 随時見直しを行い新しく介護計画を作成している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の表情、会話、行動、ケアを行った内容や気づきを個別に記録することによって、職員は情報を共有し介護計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者やご家族の状況に応じて対応している。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防等には職員の勉強会や避難訓練等の指導を頂いている。警察には周辺施設の見まわりをして頂いている。学校行事にも参加している。		
41	他のサービスの活用支援  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と情報交換を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	機会がなく、活動はあまりしていないので、今後は必要に応じて取り組んで行きたい。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に情報提供や相談を行い指示のもと、ご家族の方に説明し納得して頂いている。受診はご家族の方が同行して下さっている。同行できない時には了解を得て、職員が通院介助を行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師と情報交換をしながら対応や薬等の相談や指示をして頂いている。必要に応じて専門医受診の方向も進めている。		
45 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎週訪問看護師が指導して下さったり、利用者を見て頂いている。気軽に相談できる状況にもなっていて安心して支援できている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、早期退院に向けて医療機関と情報交換や相談に努めている。ご家族の方ともその都度連絡をとり、話し合いも行うようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について入居時から方向性を話し合う機会を作っている。利用者の状況によって主治医、家族、職員全員で方針を決めていくため、相談、話し合う時間は多くとるようにしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者が、よりよく暮らしていくために情報の変化によって、ケアプランを作成し、ケアの統一を図っている。状態の変化によっては、主治医と相談し、検討していくようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	利用者が混乱しないよう関係者と話し合いできる限りの情報を提供している。		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	日々の申し送りやミーティング、勉強会で話し合う場を作り、職員は利用者を傷つけたり混乱しないような声かけや対応を統一して、個人情報の取り扱いも注意している。		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	わかりやすい言葉で安心して頂けるような声かけに努め、やさしく接するようにしている。日々、利用者の好みや意見を組み取り、自分で決める場面も作るようにしている。		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	利用者の気持ちにそって、できるところは見守り、できないところはさりげなく支えて、その方のペースに合わせて生活ができるように支援している。		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	その人らしくおしゃれをしたり、身だしなみを整えて清潔感をもたせたいけるように支援している。毎日服を選ぶことも楽しみのひとつになっている利用者もいる。毎月、理容師が来て下さり、希望の方のみ利用されている。ご家族の方が馴染みの美容院に連れて行って下さったり、面会の時、カットして下さっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に好みを聞きながら一緒に献立を考えたり、季節感を味わうことができるように工夫するように考えている。利用者の方が職員と準備、食事、片づけは日課になっている。		
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みの物を利用者の方に聞きながら希望に応じて飲み物やおやつ等、準備するようにして、いつも楽しみにされている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に声かけや見守りの必要な方には、時間をみはからって誘導している。夜間オムツを使用している方も日中はトイレで排泄して頂けるように誘導している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯や回数など利用者の希望に合わせている。タイミングも考えながら声かけを行っている。毎日入浴されても洗髪は拒否という方にも強制はしていない。		洗髪拒否の方の場合機嫌のよい時、タイミングをみはからって声かけしていくことで洗うことができる。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	いつも自由に過ごされていて、ゆっくり休息したい時には居室に戻られている。夜間、安眠できるように適度な運動や散歩も行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の流れが穏やかでいつも利用者の方が一緒に過ごされる時間も長く役割もあり、ご自分のできそうなこと、洗濯物干し、たたみ、特に食器拭きになると積極的に手伝って下さっている。散歩は日課になっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の方から個別に必要な物がある時、購入できるようにお金は預かるようにしているが、利用者の方が買物をしてお金を支払うことができる支援はしていない。		お金の大切さを理解出来ていて、買い物の際、金銭管理ができそうな利用者の方にはご自分の必要な物の支払いをしてもらうようにしていきたい。
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望も聞きいれながら、花見、パラ園、買い物、博物館、喫茶店、食事会等に出かける機会を多くし、社会参加できるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者だけの外出は問題点も多いので実施されていないが、ご家族さんとの外出は自由となっていて、お買物、お食事、墓参り、ご自宅でゆっくり過ごされてこられる機会もある。		利用者の方によって、外出や外泊を希望されることもあるので、身体的に問題がない方には、外出、外泊の機会が増えることも検討していきたい。
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の声が聴きたいといわれる時には、電話をかけさせて頂いたり、手紙が書ける方には、やり取りができるように声をかけている。ご自分で書かれた物を外出の際、投函して頂いたり、職員が預かったりしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来て頂いた時には、ゆっくり居室で過ごして頂いたり、他の利用者の方と一緒に話をして楽しませている。食事やおやつも準備し、一緒に摂って頂けるように工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットのドアは、日中鍵をかけないで自由に入ることができるようにしている。行動も拘束することなく自由に動かれている。身体的なことも話し合い、薬や言葉での拘束もしないケアに取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットのドアに鈴を付けて確認するようにしている。利用者は自由に出入りできるようになっていて、園外に出て行かれる利用者には付き添って見守っている。夜間のみ施錠させて頂いている。		
67 利用者の安全確認  利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のバックグラウンドシートや日々の記録をもとに、日々の様子を把握するようにしてコミュニケーションを図りながら、安全面にも気をつけている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険と思われる物品の保管をしていて、必要に応じて施錠している。注意が必要と思われる物も、目のつきにくい所に保管するよう心がけている。		
69 事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルもあり、普段から理解するようにしている。利用者一人ひとりの状態も、職員は把握し防止に努めている。		
70 急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルもあり、いつでも対応できるように理解している。緊急時の対応に備えて、救急救命の訓練を受けている。		
71 災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	何が起こっても動揺せず速やかに動けるように、毎月避難訓練を行っている。災害時に備えて、非常食等も用意はしているが十分とはいえない。地域の方には日頃から協力をお願いをしている。		災害時の備えは完全といえず、不安もあり、問題点をかかえている。もう少し、安全対策の必要がある。(冬場について)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者のリスクは、日常、話し合い注意することを統一するようにしている。ご家族の方にも、起こるかもしれないリスクを説明して了承して頂くようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎週日曜日はバイタルチェックを行っている。健康状態も把握し、日々観察している。入浴時には皮膚の状態もチェックしている。気づいた事は記録し、職員がすぐ対応できるようにしている。		
74	服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の目的、副作用等は説明書により、理解するようにしている。わからないことは薬剤師にも尋ねて理解もしている。服薬管理表を使用し、確認している。		
75	便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	いつでも話し合いの場をもち、利用者の便秘の状況の把握をしている。水分補給、乳製品の飲用、食物繊維を多く摂るような献立の工夫、適度な運動も取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持  口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の方によって、ケア方法は違って、声かけのみで行う人、見守り声かけ、全面支援と身体状況に応じて支援している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に栄養摂取量がわかるように表に記録している。いつでも水分が摂れるように台所、テーブルにお茶を準備している。ご自分から水分を摂れない方には、定期的に摂って頂くよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、利用者はご家族の同意上、職員もインフルエンザの予防接種を受けている。感染症の予防対策の研修も受けている。手洗い、うがいを徹底するようにして日々様子観察を行っているが完全とはいえない。		感染症予防の対応に手洗い、うがいの強化に努め、面会時、ご家族の方にも協力して頂くように取り組みたい。
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所使用後は生ゴミの処理をし、流し台、布巾、まな板等は漂白剤を使用している。食材も2～3日分購入するようにして新鮮な物を使うようにしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭には草花が植えられて手入れも行き届いている。利用者やご家族の方も庭を散歩されている。近隣の方も庭の景色を楽しまれている。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも音楽がかかっているが、音量には気をつけている。日中でもカーテンの活用したり、夏には、各居室にたてすを使用している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	強制されることなく自由に過ごすことが出来る。体を休めたい時には、いつでもご自分の好きな時に居室に戻られる。利用者同士でベンチで話しをして過ごしたり、ホールでゆっくりテレビを観たり、談話して過ごされている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている		
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している		センター方式の活用も徐々に行っていて、できること、できないことを見極めるようにしている。
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている		

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

月3～4回の音楽療法や毎週水曜日には、フラワーアレンジメント、ゲーム、カラオケ、おやつ作り等、3ユニットが集まりレクリエーションを楽しまれている。他のユニットの方と交流を持つ機会も増えている。最近では、外出する機会も増えてきて、社会見学や花見、外食、ドライブ等もできるようになって利用者の方も生き活きしている。今後も活気あるグループホームを目指して支援していきます。